

ACANTHUS NEWS



平成16年 2004.11
月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第95号

TOP NEWS

秋季入学制度の検討も視野に 金沢で国大協通常総会開かれる



会議を進行する佐々木会長（写真右：中央）と出席の大学長ら（写真左）＝11月5日



社団法人となって2回目の国立大学協会（会長・佐々木毅東京大学長）通常総会が11月5日午後、金沢市内のホテルを会場に開催された。はじめに、中越地震で被災した長岡技術科学大学長と新潟大学長から、被害状況の報告と併せて国立大学からの様々な支援に対して謝辞があった。

総会では、理事会及び各委員会の報告が行われた後、副会長の交代、平成18年度入学者選抜実施要領・実施細目、平成19年度以降の入学者選抜方法及び教員養成専門職大学院問題に対応する特別委員会の設置などが協議された。

総会終了後、同会場で文部科学省との懇談会も開かれ、8地区の国大協支部代表から各支部会議で出された意見や質問事項等について紹介があり、出席した文部科学省 石川 明高等教育局長ら文部科学省幹部と質疑応答が交わされた。

総会には、大手メディアの記者が東京から取材に駆けつけ、初の地方開催となった国大協総会に対する社会的関心度の高さを示した。通常総会は年3回で次回は来年3月4日に開催が

予定されており、国の予算編成時期の12月8日には臨時総会も開催される。

また、総会翌日の金沢大学施設見学会には、多くの学長や国大協事務局関係者らが参加し、自然科学研究科棟と資料館を見学した。



資料館を見学する大学長ら＝11月6日

巻頭言

附属病院の意識改革



理事・副学長
渡邊 洋宇

去る4月、学長から6人の理事・副学長が任命されました。この役員には1名以上の学外からの理事が必要であり、不肖私が病院担当理事を拝命致しました。本学附属病院長を務めて退官、4年間、私立医科大学そして労災病院に勤務し、外から本学を見ておりましたが、今回の国立大学法人化は大変革であり附属病院経営の安定が本学の帰趨を決めるといっても過言ではありません。

しかるに、わが国の現行医療制度では多くの公的病院は不採算であり、何らかの形で補助金を繰り入れて経営を維持しており、本学附属病院もまた同様であります。さらに大学附属病院は、最先端の医療の提供と医学研究を行うと同時に、卒前・卒後教育、義務化された臨床研修、地域医療への医師の供給等、極めて多面的な機能が要求されます。また、昨年から「包括医療費支払い制度」が大学附属病院に取り入れられました。これは、入院の診療報酬が疾患名（約1800種類）によって決められた一定額が支払われる制度で、一定の病名ではどのような診療、検査がおこな

われても規定額しか診療報酬として支払われません。すなわち、重症の患者や、合併症が発生した患者にはそれだけ多くの医療費がかかることになり、経営上は不利ということになります。言い換えれば、短い期間で効率的に治療を行い、病室の利用率を高めることが、病院経営の改善をもたらすことになります。有効に病床を稼働させるためには、地域住民に愛される病院として地域医療機関との連携、機能分化が極めて重要といえます。

また、周知のごとく、法人化後は病院経営には2%の経営改善係数（ちなみに当院では3億1千万円）が課せられ、この数字は単年度ですから、5年後には15億5千万円になります。これだけの収入増を図るには、これにかかる経費を勘案しますと20億円以上の診療実績を上げることが必要であり、決して容易な数字ではないことは明らかであります。

一方、病院の再開発では、病棟は平成13年に開院しましたが、中央診療棟が17年10月にオープン、続いて外来診療棟、そして総合臨床研究棟、管理棟と続きますので、病院再開発は道半ばというべきであります。これらの病院再開発の経費は財政投融資によるものであり、毎年これを返済していく必要があります。

このように多くの課題を抱えながら法人化が進行しております。この難局を乗り越えるには、職員全員の意識改革と連帯感が不可欠であります。

目次

秋季入学制度の検討も視野に		ノートテイク・パソコンノートテイクの技術向上を	8
金沢で国大協通常総会開かれる	1	フルブライトメモリアル基金米国教育者が来学	8
巻頭言 附属病院の意識改革	2	田上小学校児童が「総合学習」で事務局訪問	9
学生の起業を支援するVBL	3	中学生ががん研究所で「総合学習」	9
大学発ベンチャーを起こせ！	3	高校生が大学の授業を体験	9
知的財産は大学の資産	3	金沢錦丘高校生が遺伝子実習	9
科学研究費申請率が81.6%に	4	本学へのお客さま	10
構造生物学の創成を探究	4	秋の国体で世古さん6位、福村さん8位入賞	10
職員の意識改革を！	4	布野さんがロードレース優勝	10
環日本海地域の自然環境をテーマに日韓ワークショップ	5	ミニ講演 顔は似ていてもこんなに違う！	
福井テクノフェアに出展	5	- 中国の大学で垣間見た日本・中国・韓国の	
外部資金獲得を目指して	5	三ヶ国学生文化の相違 -	11
第41回金大祭「作・造・創 - とともに。」	6	公開講座等	11
里山自然学校と里山メイトが金大祭に参加	6	「くすりと健康プラザ」市民講演会	11
「ふれてサイエンス」に1300人以上が参加	7	身近な薬草勉強会	12
附属図書館・資料館特別展に250人が来訪		大学院生石田さん 国際学会で表彰	12
「文字・人・こころ - 金沢大学ゆかりの墨跡・		がん研究所で防火訓練	12
拓本・手跡 - 」	7	編集後記	12
ピア・サポーター活動開始	8		

トピックス

学生の起業を支援するVBL

あいさつする林学長
=VBL院生研究室DNAチップ解析装置を視察する林学
長ら
=VBL分子生物実験室

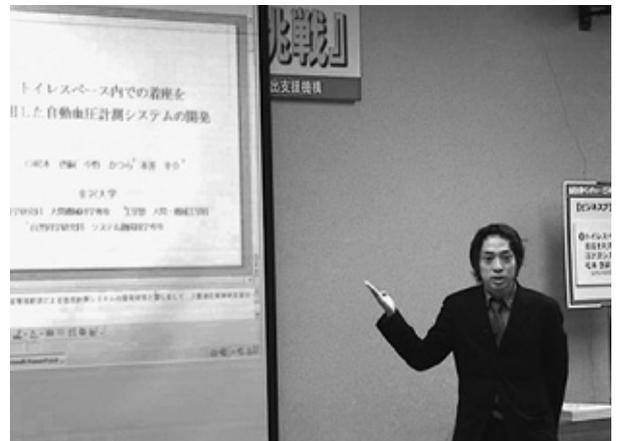
10月1日、4月に設置したベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL）の開所式が行われた。林 勇二郎学長は「大学には基礎研究はもとより、幅広い実践研究が求められている。このラボラトリーを活用し、学内の連携を深めてビジネス志向の学生を育成したい」とあいさつし、来賓の潮田資勝北陸先端大学長らが、ラボラトリーへの期待を込めて祝辞を述べた。

ラボラトリーでは、4名のポスドクが採用され、「生体機能システム」、「環境保全技術」の2つの研究テーマのもと、学内から公募した16のプロジェクトが研究を始めており、ベンチャービジネスプランコンテストやベンチャービジネス講座なども実施して、学生の起業を支援する。

大学発ベンチャーを起こせ！

10月26日、「ベンチャービジネスの可能性に挑戦」をテーマに、ベンチャービジネスプランコンテストが行われた。コンテストは、学生の提案・発表を通じて大学発ベンチャーの機運を高めようと開かれたもの。

廣瀬幸雄ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長が「このコンテストが金沢から新たなビル・ゲイツを生み出すきっかけとなれば」とあいさつ。自然科学研究科の院生をはじめとする16グループが発表し、審査員・参加者から次々と質問があった。発表の後、4名の外部審査員による講評とパネルディスカッションが行われた。



ビジネスプランを発表する大学院生=工学部秀峯会館

第1部「大学と知的
財産戦略」
=10月14日、
事務局大会議室第2部「特許行政を
巡る最近の動き」
=10月29日、同

知的財産は大学の資産

知的財産本部は、教職員・学生の知的財産への理解を深めることを目的に10月14日と29日の2部構成で「知的財産」フォーラムを開いた。

14日は「大学と知的財産戦略」をテーマに、吉国信雄知的財産本部長が、本学の知的財産活動の現状と課題について説明し、本学で実施に至った特許の事例を紹介した。また、システム・インテグレーション(株)の多喜義彦社長が、「金沢活性化のための知的財産活用」と題して講演し、「知的財産は大学の資産である」として知的財産の重要性を強調した。

29日の第2部では「特許行政を巡る最近の動き」をテーマに、特許庁特許技監の小野新次郎氏が、「バイオ・医療関連技術と特許」について講演。バイオ・医療分野での日本の特許出願の遅れを説明して、大学研究者の特許への理解を求めた。



科学研究補助金学内説明会＝10月4日，総合教育棟B1講義室

科学研究費申請率が81.6%に

平成17年度科学研究費補助金の計画調書提出が、10月28日学内で締め切れ、申請件数が1,265件（前年比185件増）となった。重複申請を除き、学内研究者に対する申請率は81.6%となった。昨年度の同申請率は74.3%で、7.3%上昇した。本学では、外部資金の獲得増を目指して、科学研究費の申請率に応じた部局への予算配分を取り入れたり、学内説明会に採択者の体験談を紹介したりして、科学研究費の申請増加を図ってきた。

科学研究費を担当する研究支援課では、「申請数が増加することで、採択率は下がるかもしれないが、結果的に採択件数が上がってくれば」と話している。交付の内定は、平成17年の4月中旬の予定。

構造生物学の創成を探究

今年度3回目となる先端研究フォーラム「高度先端解析技術で拓く構造生物学の創成」が10月22日、総合メディア基盤センターで開催された。自然科学研究科の福森義宏教授がナノサイズのタンパク質超複合体の立体構造解明と機能との関連について、同 安藤敏夫教授が世界最高速の原子間力顕微鏡によるタンパク質の観察と先端機器開発による新しい構造生物学の創成について、同 長尾秀実助教授がタンパク質の水溶液中での構造と構造形成をシミュレーションにより解き明かす最先端研究について、それぞれ講演した。



講演する福森教授と参加者



職員が多数参加した講演会＝事務局大会議室

職員の意識改革を！

慶應義塾大学 塾監局参事 岡林 隆氏を講師に迎え、10月18日「意識改革に関する講演会」が開かれた。これは、法人化により大学運営の自主・自律性が拡大したことを踏まえ、経営的な観点から業務にあたるよう事務職員の意識改革を目的としたもの。

第一部は「国立大の意識、私学の感覚」と題する講演会で、岡林氏は国立大と私立大の双方の経験を踏まえ、国立大が私立大に学ぶべき事柄、今後の大学職員像などについて講演し、職員約130名が聴き入った。

第二部は「職員の意識改革を図るためには」をテーマとする会議形式で、幹部職員21名が出席し、事前アンケートをもとに講師と意見交換を行った。

環日本海地域の自然環境をテーマに日韓ワークショップ



参加者による記念撮影＝韓国テジョン市

自然計測応用研究センターと韓国地質資源研究院の共催による国際ワークショップが、10月4日から8日にかけて韓国テジョン市で開催された。日本海をはさんで地理的に隣接し歴史的に交流実績がある2国間で、環日本海地域の自然環境の変動と人間活動との調和を考察する共同研究を進めることを目的とした。2日間にわたる講演では、両国で蓄積された陸域の環境変動に関する知識の共有に重点が置かれた。野外巡検では湿地帯を見学し、環日本海におけるその地域の環境変動史の意味について議論した。来年度は金沢での開催を目指す。

福井テクノフェアに出展

金沢のMEXとともに北陸地方での2大技術展示会である「北陸技術交流テクノフェア2004」が10月14、15日の両日、福井県産業会館で開かれ、本学から共同研究センター、知的財産本部、KUTLOからの活動紹介に加え、工学部情報システム工学科集積回路工学研究室、自然科学研究科高分子化学研究室、医学部保健学科臨床作業療法学研究室から各研究室の研究成果の展示を行った。同フェアには延べ1万8千人の来場者があった。



本学紹介ブース

外部資金獲得を目指して



第一部講演
＝インキュベーション施設のセミナー室

競争的資金の導入による研究の拡大を図ろうと、経済産業省の平成17年度提案公募型技術開発事業施策説明会が、10月19日開かれた。第一部では、中部経済産業局 産業技術課 鈴木秀和課長が「中部地域における研究開発・産学官連携の現状と主な助成事業」について講演し、学内外からの30名の参加者が熱心に聴き入った。第二部では来年度の応募希望者が研究計画をもとに、資金の獲得方法について個別相談を行い、参加者はそれぞれ開発につながる研究のヒントを学んだ。

第41回金大祭「^{つくる}作・^{つくる}造・^{つくる}創—ともに。」

10月30日から11月1日にかけて、「^{つくる}作・^{つくる}造・^{つくる}創—ともに。」を統一テーマに第41回金大祭が角間キャンパスで開かれ、約6000人の市民らが来場した。金大祭本部企画の講演会は10月31日に開催され、作家の米原万里氏が「遠近法のすすめ」と題し、約180人の市民らに語った。



講演会
=10月31日, 総合教育棟B4教室

「金大祭パレード」学生250人が金大祭をアピール
=10月24日, 金沢市内



J・M・C (ジャグリング&マジック) によるストリート・パフォーマンス=10月31日, 大学会館前広場



にんしぶんの会による加賀太鼓演奏
=10月31日, 角間キャンパス入口大階段

里山自然学校と里山メイトが 金大祭に参加

10月30日から開かれた第41回金大祭に、里山自然学校と里山メイトが昨年に引き続いて参加した。角間の里山を歩く「里山ウォーク」や、模擬店ストリートでの「コケ玉」や「竹炭」、「ドングリのトトロ」など「里山のおすそわけ」を販売した。また、茶道部のお茶会会場には、長さ2mの竹を組んで大きな「花寄せ」をつくとともに、「藍染め」、「草木染め」など、里山メイトが山の素材で作った作品を展示し、お茶会の雰囲気盛り上げた。里山自然学校では来年以降も金大祭に参加し、市民と学生の交流を進めていくことになっている。



10月30日, トトロ
を作る留学生
=大学会館前広場



同, お茶会会場の花寄せ=大学会館大ホール

「ふれてサイエンス」に1300人以上が参加

理学部は10月31日、見学会「ふれてサイエンス」を開催した。自然科学の楽しさと必要性を伝えるため、例年、各学科が工夫を凝らした企画を持ち寄って実施しているもので、当日は1300人以上の市民らの参加があった。

身近な科学から最先端の研究まで、実際に「見て触れて実験し、楽しむ」という体験が、参加者の好評を得ていた。



「万華鏡づくり」＝理学部大講義室



「ホバークラフトに乗ろう！」＝理学部前広場



「粘土のふしぎ」＝理学部地球学科廊下



「パンを作ろう」＝理学部化学実験室

附属図書館・資料館特別展に250人が来訪

「文字・人・こころ－金沢大学ゆかりの墨跡・拓本・手跡－」

本学にゆかりのある先人の筆跡や関係資料を公開展示する附属図書館・資料館特別展が、10月25日から11月7日まで資料館展示室において開催された。

附属図書館蔵「高句麗広開土王碑拓本」と第四高等学校教授市村^{つづみ}塘筆記の東京帝国大学講義録は今回初公開となり、医学部、教育学部の協力も得て、太政大臣三条実美筆「金沢病院」の扁額、西田幾多郎の書等が展示され、本学をはぐくんだ歴史的環境を伝えた。

10月25日には、同展に合わせて、資料館公開講演会「水の分子式を H_2O と教えたスロイスの^{せいみかく}舎密学講義」が、同館客員研究員板垣英治名誉教授を講師に開かれ、明治4年から7年にかけて、医学部の前身「金沢医学館」で、中央に先がけて最先端の化学の講義が行われていたことが紹介された。



特別展＝資料館展示室



講演会
＝附属図書館AV室

ピア・サポーター活動開始

学生による学生のための悩み相談室「ピア・サポート・ルーム」が自然科学本館の保健管理センター南分室内に10月中旬オープンし、相談を受ける学生ボランティア「ピア・サポーター」が活動を開始した。ピア・サポーターは学部2年生から4年生の男性2名、女性5名の計7名で、保健管理センターのカウンセラーから半年間カウンセリングの技法などの訓練を受けた。「なんでも相談室」が学業や履修の相談を含めあらゆる相談を受けるのに対し、「ピア・サポート・ルーム」は主に学生の心の悩みについて、毎週月曜・火曜の3・4限目にサポーター2名ずつで相談にあたる。



相談業務について打ち合わせるピア・サポーター（左）と保健管理センターのカウンセラー＝10月12日オープンしたピア・サポートルーム

ノートテイク・パソコンノートテイクの技術向上を



本学学生を対象に、聴覚障害学生支援のためのノートテイク・パソコンノートテイク技術の習得と、聴覚障害者への理解を深めるため、10月20日「ノートテイク・パソコンノートテイクに係る講習会」が開かれた。講習会は7月に続いて2回目で、金沢市聴力障害者福祉協会の山村信平氏による「聴覚障害学生とノートテイク」と題した講義の後、参加した学生が手書きのノートテイクとパソコンを使用したノートテイクの実技練習を行った。

スクリーンに映し出されたノートテイクの実演を例に技術を学ぶ学生＝総合教育棟大会議室

フルブライトメモリアル基金 米国教育者が来学

フルブライトメモリアル基金による米国教育者訪問団18名が10月12日、本学を訪れ、大村明雄副学長、片桐和雄教育学部長、教育学部及び附属学校関係者、教育学部学生らと、教員養成及び学校教育に関する諸問題について懇談した。

米国教員からは日本における教員のストレス・マネジメント、教職希望学生の就職状況について様々な質問が出され、一方、本学学生からは米国における情報関連教育の現状、教員と生徒の家庭との連絡の在り方等について質問が出るなど、活発な意見交換が行われた。



質問する米国教員＝事務局大会議室

田上小学校児童が 「総合学習」で事務局訪問

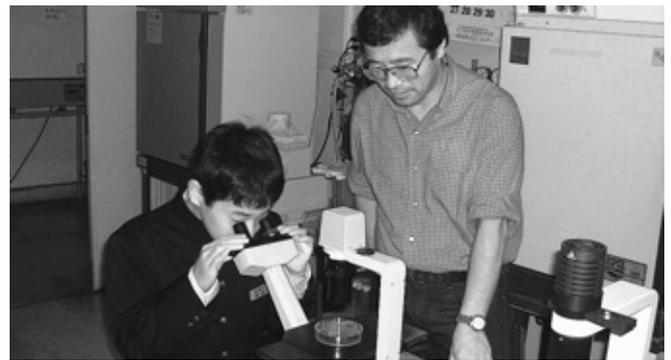
10月8日、田上小学校3年生の児童4名と山中 満校長が、「総合学習」の勉強の一環で事務局を訪問した。児童は「大学の行事」について調査しようと来学したもので、総務部職員から「金大祭」や「ふれてサイエンス」などの大学行事の種類や大学の様々なデータについて説明を受け、身近な場所にある大学へ関心を深めていた。



総務部職員から説明を受ける児童＝総務部長室

中学生ががん研究所で 「総合学習」

「総合的な学習」の校外リサーチとして、小松市立松東中学校2年の池田晋悟君が10月20日、がん研究所を訪れた。池田君は「研究者の生き方について」をテーマに学習を進めており、当日は研究所の教員にインタビューを行い、特に組換えDNAについて熱心に学んだ。池田君は、「この体験を、将来に役立てていきたい」と抱負を語っていた。



教員の指導で顕微鏡をのぞき込む池田さん＝がん研究所

高校生が大学の授業を体験

高校生に大学の授業を体験してもらい、進路決定に役立ててもらおうと、10月16、23、30日の土曜日3日間、自然科学本館で高校生向け公開講座が開かれた。

企画にあたった理学部中西 孝教授をはじめ、同学部磯邊 清、医学部西條清史、薬学部中垣良一、工学部中本義章の各教授が、それぞれの領域の化学について実験などを交えて講義した。

参加した高校生は、高分子化学などの実験を目の前で見て、そのおもしろさと素晴らしさを体感したほか、これまで知らなかった化学が身近なところにあることを知り、満足そうであった。30日には、在学生との交流会も行われた。



講義4「高分子の化学」＝10月30日、自然科学本館102講義室

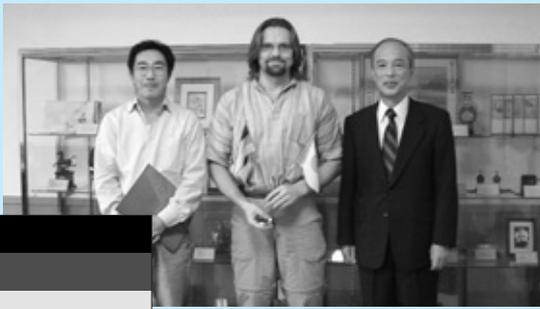
金沢錦丘高校生が遺伝子実習

金沢錦丘高校3年の生徒9名が10月10日、学際科学実験センターで遺伝子実習を行った。同校教諭が8月にセンター主催の「理科教員のための遺伝子組換え実験教育研修会」に参加したことをきっかけに行われた。同校では、米国の生徒と協力して環境調査を進めており、これまでブナ林での土壌形成と土壌生物の観察を行ってきた。今回の実習では、ブナ林、生ゴミ処理のコンポスト及び校庭の各土壌から直接DNA（遺伝子）の抽出を試み、土壌中の微生物の量について比較した。



DNA注入装置の説明を受ける生徒
＝学際科学実験センター遺伝子研究施設

本学へのお客さま



共同研究のため来学した，大学間交流協定校 ドイツ・レーゲンスブルク大学アレクサンダー・レンツ講師（中央）＝10月4日，大村副学長室

ドイツ・ミュンヘン工科大学ギンター・シュミット名誉教授夫妻（右端，同2人目）＝10月4日，学長室



大学間交流協定校 中国・大連大学校務委员会主任 趙 亜平教授（中央），日本語学院院長 宋 協毅教授（右端）＝10月7日，大村副学長室



職員の活躍

秋の国体で世古さん6位，福村さん8位入賞

10月23日から28日まで埼玉県で開催された国民体育大会秋季大会「まごころ国体」で，総務部人事課職員の世古真知子さんが，ライフル射撃競技の成人女子チーム・ライフル立射で6位に，医学系研究科職員の福村羊里子さんが，陸上競技の成年女子100mで8位に入賞した。

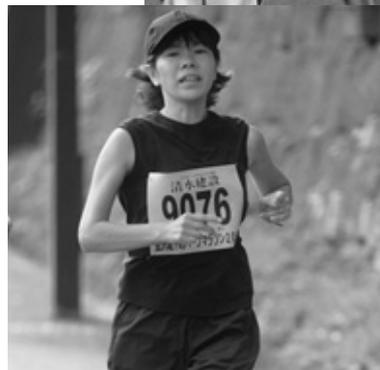


競技中の世古さん（手前）
表彰式で賞状を掲げる福村さん（右端）



布野さんがロードレース優勝

10月17日，地元市民レースとして伝統ある「金沢百万石ロードレース」（北陸中日新聞社主催）で医学系研究科職員の布野直江さんが，女子一般39歳以下10km の部で優勝した。布野さんは，これまで5km では様々な大会で3回の優勝経験があるが，10km での優勝は初めて。



街なかを力走する布野さん

ミニ講演 顔は似ていてもこんなに違う！

— 中国の大学で垣間見た日本・中国・韓国の三ヶ国学生文化の相違 —

○月 日：10月2日

○講 師：杉村安幾子

外国語教育研究センター助教授

○場 所：金沢大学サテライト・プラザ講義室

○テレビ会議システムによる「金沢大学遠隔講座」

受信会場：寺井町立図書館

○来場者：20名



公開講座等



コードネームを使った簡単な
ピアノ伴奏講座 中級コース

主任講師：篠原 秀夫 教育学部教授
=10月16日,
教育学部芸術棟音楽演習室



ケミカルマジックを演じてみよう！

主任講師：染井 正徳
自然科学研究科教授
=10月16日,
自然科学1号館薬化学実験室



暮らしに生きる大学の研究
—シリーズ1—

企画担当：大学教育開放センター
=10月16日,
金沢大学サテライト・プラザ講義室



美術への誘いIX—人物油彩画—

主任講師：大村雅章教育学部助教授
=10月20日, 教育学部芸術棟第2絵画室



ビデオライブラリー公開セミナー「健やかに人生を生きるために」

企画担当：大学教育開放センター
=11月1日, 大学教育開放センター講義室

「くすりと健康プラザ」市民講演会

薬学部「くすりと健康プラザ」の第2回市民講演会は、プラザ
設立1周年を記念して10月24日、石川県教育会館で開かれ、附
属病院リハビリテーション部副部長の川原範夫助教授が「骨粗
しょう症—予防から最新の治療まで」、同院薬剤部長の宮本謙一
教授が「骨粗しょう症治療薬の正しい使い方」と題して講演した。
なお、県病院薬剤師会の「お薬相談コーナー」も開設された。



講演する川原助教授

身近な薬草勉強会

薬学部附属薬用植物園において10月23日、昨年秋に植えた コオニユリ（ユリ科）の収穫祭が行われた。当日は秋晴れのもと、市民の親子約40名が参加した。御影雅幸園長から、「百合根は咳を鎮め、熱を下げる効果があるが、胃腸の弱い人は注意する必要がある」など薬効について勉強した後、スコップ等で収穫した。収穫した百合根はその場で中華風に調理し、参加者全員で試食した。

百合根を収穫する市民
＝薬用植物園



大学院生石田さん 国際学会で表彰

10月21日から25日にかけてプエルトリコのサンファン市で開催された、国際サイトカイン学会と国際インターフェロン学会の連合学会で、医学系研究科博士課程の石田裕子さんが発表した演題「皮膚損傷過程におけるインターフェロンγ



とTGFベータのクロストーク」が、大学院生対象のOutstanding Scholar Awardに選出された。

他の受賞者と一緒に
Outstanding Scholar Award
の賞状を手にする石田さん
(前列左端)
＝10月23日、サンファン市内

がん研究所で防火訓練

10月28日がん研究所で、初期消火の知識、技能を学び、防火に対する意識の高揚を図ろうと防火訓練が実施された。訓練には教職員、学生ら約45名が参加し、消火器を使用して初期消火訓練を行った後、屋内消火栓の取扱い等について説明を受けた。



初期消火訓練＝がん研究所玄関

編 集 後 記

紅葉が綺麗な兼六園は、世界遺産登録を目指していると聞きます。そこから広坂に下ると、元附属学校の跡地は円形ガラス型の21世紀美術館に生まれ変わり明るく一新し、多数の観光客が訪れています。

先日、国大協の総会が初めて地方で行われることとなり、ご当地金沢で開催されました。法人化後、前例の無いこと、マニュアルに書いていないことが少しずつ出てきていると思われます。しかし、見方を変えると、未経験の仕事には発展のチャンスが無限に広がってきているとも言えます。新しいことへのチャレンジは、北陸地区だけでなくグローバル社会への取組みとなることも多いと思われます。金沢大学の様々な取組みについてご承知・ご理解をいただけることを期待します。

(Kuro)

平成16年11月26日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学広報室

TEL 076-264-5024
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS” (キューピーズ))
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール (E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。